

第40回記念展に寄せて

運営委員長 小堀 清純

道彩展（北海道水彩画会展）も昭和、平成、令和と回を重ねて、今年で創立40回を迎えることになりました。新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から1年延期されていましたが、無事に開催することができ安堵しております。

昭和57年（1962年）2月、大同ギャラリーにおいて、水彩画を愛する仲間を集め、刺激し合い、新しい表現と価値を認め合う広場を作ろうという趣旨で32人の同人展（第2回展から公募展に改組）からスタートしました。顧問として、その趣旨に賛同された道展会員 納直次、今野ミサ、全道展会員 国松登、八木保次、新道展会員 沖本友吉、白日会会員 川村正男というそうそうたる顔ぶれの先生を迎えご指導いただきました。顧問制度は第15回展から見直しましたがその存在は大きかったといえます。

スタート当初は、出品者も60人余りで、財政的にも厳しく、運営的にも紆余曲折するなど、諸々な状況が走馬灯のように駆け巡ります。

現在は、展示点数が入選者を含め約120点前後の規模となっております。多少偏りがありますが出品者も全道的（函館と江別に連絡事務所を開設）に広がり、機関誌みずを発行し、会員会友展や研究会等を開催しております。また、道内外の公募展で会員として活躍する者も増えております。しかし、まだまだこれで良いという段階ではない。また、近年一般出品者がかなり減少しており、創意工夫して立て直す必要が急務と言えます。

なお、創立当初から熱心にご指導・ご支援していただいた八木保次・伸子先生夫妻が平成24年に相次いで他界され、ご遺族の寄付により両先生を記念する賞が第35回展から創設されました。

第40回記念展を迎えるに当たり、より一層の精進を期したいと思います。